

D (コンピュータを活用した指導方法の改善)

学習意欲を高め、理解を深めるICT活用の在り方

白石町立有明東小学校 教諭 小川 弘孝 小城市立砥川小学校 教諭 内田 明

1 研究の趣旨

21世紀の高度情報化社会において、学校教育の中でもICTの効果的な活用が求められている。

文部科学省の「情報化への対応」では、各教科等の授業の中で、ICT機器を使って「わかる授業」や「魅力ある授業」の実現を目指している。また、佐賀県においても、「社会の進展に対応した多様な教育の推進」の中で、学校現場における情報活用能力の向上が重点的に取り組む施策として挙げられている。その結果、情報機器の更新やインターネット接続等の環境整備が進められ、コンピュータやマルチメディア教材を授業の中で活用できる環境が整いつつある。

平成18年度佐賀県小・中学校学習状況調査では、すべての教師がコンピュータを活用した授業を年10回以上行っている学校グループと、9回以下の学校グループとで通過率を比較した場合、5年生では、全教科において前者が上回っていた（前者と後者の平均通過率の差は3.6ポイント）。特に、理科や社会においてその傾向が顕著であった。このことから、コンピュータを活用した授業を行うことが、児童の学力の定着によい影響を与えているのではないかと考えられる。

しかし、学校の情報化のためのインフラ整備には地域差がある。また、授業におけるコンピュータの使い方が、インターネットサイトの閲覧を中心とした調べ活動に偏っていることから、様々な学習場面でコンピュータ活用がされているとはいえない。したがって、これからは普通の授業におけるコンピュータ等のICT機器の多様な活用がより一層求められるであろう。

そこで、本グループでは、ICT機器を活用し、教師と児童及び児童相互のコミュニケーション活動を活発にするような授業実践を行うことにより、児童の学習意欲や理解を効果的に高められると考えた、研究を行うこととした。

めざす児童像を「意欲的に学習に参加し、自分の思いや考えをもち、積極的にコミュニケーションを図ることができる児童」と設定した。教師と児童、及び、児童相互のコミュニケーション活動を円滑にし、効果的に児童の学習意欲を高め、理解を深めるICT機器の活用の手立てについて、「視覚に訴えるマルチメディア教材の活用」「コミュニケーションツールとしてのICT機器の活用」という2つの視点から、実際の授業での活用場면을以下のように想定した。

視点	視覚に訴えるマルチメディア教材の活用	コミュニケーションツールとしてのICT機器の活用
活用の手立て	<ul style="list-style-type: none">○ プレゼンテーションソフトウェアやスマートボードソフトウェアをベースとした、画像、合成写真、フラッシュコンテンツの活用○ インターネットを活用した、画像、動画クリップ、ライブ映像の活用○ Google EarthTM 地図サービス（3D地球儀ソフト）、Webページ作成ソフト等のソフトウェア活用	<ul style="list-style-type: none">○ チャットによる児童相互の意見交換○ 書画カメラを使用した児童の表現活動○ 電子情報ボードを使用した児童の表現活動○ 遠隔地にいる専門家とのテレビ会議○ 電子掲示板による児童の意見交流

これらの手立てを授業場面で適切に取り入れることにより、コミュニケーションの場を生み出し、また、児童が互いの考えを吟味し合うことによって、学習への理解を深めていけるような授業実践を提案したいと考え、研究を行った。

2 研究教科・領域等

小学校国語科、小学校社会科において研究課題の解決に向けて研究を行った。

3 研究の成果

研究の趣旨に述べたICT活用の2つの視点に留意して授業を仕組むことにより、児童の学習意欲の高まりとコミュニケーションの場の活性化を生み出すことができた。その結果、児童は、互いの考えを吟味し合い、理解を深めることができた。また、これらの授業実践は、児童の情報活用能力を高めることへもつながった。

(1) 視覚に訴えるマルチメディア教材の活用

国語科においては、Webページ作成ソフトや電子紙芝居等を「書くこと」の学習場面で活用させることによって、児童の意欲を高めることができた。また、リーフレットの「見直しのポイント」や電子紙芝居のスライドの作り方などを、プレゼンテーションソフトを使って説明することによって、児童は、学習の見通しをもつことができ、スムーズに活動に取り組むことができた。

社会科においては、Google Earthや動画クリップ、合成写真、フラッシュアニメーション等のデジタルコンテンツを活用することで、児童の学習意欲を喚起し、社会的事象についての実感的な理解を促すことができた。また、電子情報ボードを使って資料の拡大提示や部分拡大を行い、マーキングをすることにより、資料を見る視点を明確化し、児童の資料活用技能を高めることができた。

(2) コミュニケーションツールとしてのICT機器の活用

国語科においては、リーフレットの見出しを児童が共同推こうする活動の中で、チャットを用いた。児童は、文字として次々に表される考えを基に、更に考えを積み重ね、グループ内で積極的にコミュニケーションを図ることができた。また、電子掲示板を用いて、自分たちの作品について6年生からも感想やアドバイスをもらう学習活動を仕組んだ。その結果、学年や学級の枠を超えたコミュニケーション活動が可能になり、児童は、よりよい作品に改善していこうとした。

社会科においては、書画カメラや電子情報ボードを活用した表現活動を児童に行わせることで、個人の考えを学級全体で円滑に共有化することができ、児童が他者の考えを参考に自分の考えを吟味する一助となり、新しい知識の定着へとつながった。

(3) 児童の情報活用能力の育成

「情報教育の目標で分類した学習活動一覧」を基に、情報教育の目標に合致した実践であったかを検討した。教科書や資料集、図書資料、提示されたコンテンツ等から様々な情報を児童は読み取ったり、他者の考えを聞いたりする。その中で、妥当な情報であるかを総合的に判断するための「必要な情報を収集・判断する力」や、また、他者の意見やアドバイスから改善点を見付け出し、自分の作品を再構成していくための「情報を主体的に表現・処理・創造する力」を身に付けさせることができた。今回の実践は、児童の「情報活用の実践力」を高めることに有効であったといえる。

4 今後の課題

- (1) 本研究で検証を行った単元以外にも、ICT活用を効果的に行うことができる単元を発掘し、活用のポイントを探る。
- (2) 学習の目当てを達成するために、ワンポイントで使えるようなマルチメディア教材を開発し、それを活用した授業実践の普及を図る。

《参考文献》

- ・ 文部科学省 「情報化への対応」 平成19年3月
- ・ 文部科学省 「初等中等教育の情報教育に係る学習活動の具体的展開について」
初等中等教育における教育の情報化に関する検討会 平成18年8月
- ・ 佐賀県教育委員会 『平成18年度佐賀県小・中学校学習状況調査報告書』 平成19年3月